

信州梓川賞展

梓川地域の風景や文化、行事を題材とした絵画の公募展「第22回信州梓川賞展」が2月4日(土)から3月5日(日)まで開催されました。

最高賞である梓川賞には、北原啓輔(松本市中央)さんの「古代梓弓の里に流れるつゆ明けの梓川」が選ばれました。

作者の北原さんは、「小学生の時に学校で梓の木で作られた梓弓の話を聞き、夏休みに友人と自転車ですの木の探しに梓川へ何度も足を運びました。当時の梓川は今よりも豊かな水が流れており、夏の輝く空の青さが映りこみ、とても青い水を湛えていました。その美しさが頭にずっと残っており、今回絵にすることができました」と作品のテーマを語っていました。

審査員からは、「幼い頃の印象的な思い出をさまざまな色や形で描き、川の流れから悠久の歴史を



▲梓川賞の作品と作者の北原さん



梓川の世帯数・人口

世帯数	4,786戸
人口	12,305人
男	6,083人
女	6,222人

(令和5年3.1現在)



読み解くような非常に密度の濃い作品である」と講評がありました。

梓川地域の恵まれた自然が、長く住む人にも、移住された方にも、そして訪れる方にもさまざまなインスピレーションを与え、素晴らしい作品が集う梓川賞展が今後も続いて欲しいと思います。

なお、梓川賞展には一般の部に68点、小中学生の部には196点の作品の応募があり、一般の部は梓川賞のほか、金賞が1点、銀賞が2点、銅賞が5点、特別賞3点が選出されました。

梓川小学校開校50周年 & 梓川中学校開校70周年

「大地に立つ教育」

梓川小学校は、昭和48年に旧梓川小学校と倭小学校が統合し、現在地に開校しました。

当初から「大地に立つ教育」を実践し、地域に根差した教育に取り組んでいます。校歌にも歌われている「くれない」色の校舎が立ち並び、児童は元気にのびのびと学校生活を送っています。

「強く優しく 思慮深く」梓川中学校は、昭和28年梓村と倭村の中学校を統合し、梓村・倭村学校組合立梓川中学校として開校しました。

学校教育目標に、「強く優しく思慮深く」を掲げ、主体的に学び、自ら考える力を引き出せるよう授業が行われています。

す。リンゴの摘果作業や梓庄との交流など地域とともにた



▲開校50周年を迎えた梓川小学校(改築中)

梓川小・中学校を卒業して

梓川小学校開校50周年、梓川中学校開校70周年おめでとうございます。私は梓川の地に生まれ育ち、一年先輩が中学校の新校舎を使用した卒業生として、当時との違いに時代の流れを感じている一人です。

小学校のスケート授業は小室のふるさと公園の池のスケートリンクで滑るのが楽しみで、手が凍るような寒さの中で保護者と一緒にリンク整備もしました。その後は、浅間のスケートセンターに変わり、今では岡谷市のリンクとなっていました。

くましい生徒が育っています。



▲開校70周年を迎えた梓川中学校

い、少し寂しい気がします。中学校では梓川の名産のリンゴの摘果作業が思い出されます。リンゴ農家でない生徒も初めて広いリンゴ畑に入り、真ん中の一番大きい実以外は摘果する体験をし、梓川出身者としての自慢話となりました。

自分の子ども時代と今とは社会環境も大きく変わり、生活スタイルも変わってきました。しかし、学校の横を通ると昔と変わらず子どもたちの元気な声が校内から聞こえてきます。自然に恵まれた梓川に愛着を持ち、これからの「あずさっこ」として、のびのびと育ってほしいと思います。



▲丸太(障害物)を撤去する様子

NICE GUY

消防団員募集

梓川消防署指導のもと梓川消防団が、協力的体制構築と臨

機応な対応を目的に、火災現場と火災状況を予め通知しないブライント訓練を実施しました。訓練は、想定のみ与える実践的なもので、今回は林野火災現場に駆けつけ、障害物撤去、取水確保などを行うものでした。細田副団長から37、38、39分団に第一出動の指令が出され、現場に向かう道路上障害物の丸太撤去と取水確保、現場までの中間地に中継の準備消火場所にある障害物の丸太撤去が指令されました。その後、火災が拡大した想定で、35、36分団に第二出動の指令

がされました。全5分団が火災現場に集合し、取水箇所からホースをつないで中継放水、複数で消火を行う訓練では、飛び火に対してジェットシューターを背負って消火、ホースをつないで延焼に対応する他、ポンプのトラブルなど予想外の事態にも全団員が協力して対処していました。細田副団長は「良い経験ができた。どの現場でも安全確保が大事だ。消火器材の管理を行って、全分団が協力して対処するように」と訓示しました。



▲取水箇所からホースを繋いで中継放水する様子

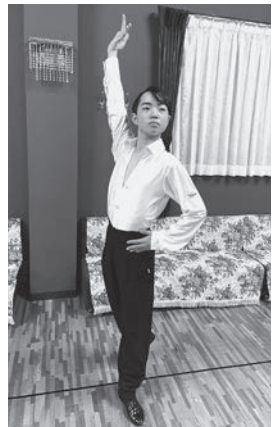
消防団の地道な訓練によって地域は守られていることに感謝し、火災予防をしたいと思えます。

また、他県に進学した際には色々な地方からの言葉が交わり、そこでもやはり言葉の違いに花が咲いた。中でも可愛らしかったのは、静岡出身の子が発した、「とかじってる」というものだ。髪がとかじってる、というので何が?と聞き返すと、髪が絡まるの意味だそう。その地域の文化だとか難しい話は抜きにして、地元の方言を耳にすると落ち着くし、愛着も湧く。恥ずかしがらずに、松本弁を周囲に発していきなさいと思っ

社交ダンスジュニア日本一

梓川中学校 南山雄大さん

梓川中学校の南山雄大さん(中学2年生)は、昨年11月に川崎市で開かれたJOCジュニアオリンピックカップ全日本ダンススポーツ選手権ジュニアのラテン種目にペアで出場し初優勝をしました。



▶日本一に輝いた南山さん

南山さんは、小学2年生から社交ダンスを始め、日々のためまぬ努力により全国の頂点に立ちました。南山さんは、「社交ダンス(ダンススポーツ)全日本優勝は、ずっと目標にしていたのでかなえられて本当に嬉しいです。憧れの選手達のように、最高のパフォーマンスが出来るダンサーを目指して、これからも練習頑張ります。」と話しており、今後さらなる活躍が期待されます。

変わりゆく梓川の風景

梓川駐在所新庁舎完成

1月31日に梓川警察官駐在所の落成式が行われました。旧梓川警察官駐在所は、昭和56年に梓川村警察官駐在所として建築されましたが、老朽化が進んだことに加え、来訪者用の設備などがないことから建て替えとなりました。新庁舎は、ゼロカーボン建築モデル駐在所で、コミュニケーションルームや多目的トイレが設置され、今後EV(電気)パトカーの配備が予定されています。



▶新しくなった梓川警察官駐在所

雑記帳

先日、友人と地元の方言の話題で盛り上がった。普段気なしに使っている言葉が職場の他県出身の同僚に通じず聞き返されたとのこと。

私自身も幼い頃に一緒に住んでいた祖母の影響で方言には自信がある。てきない(疲れた)、まえで(前の方)、やこい(柔らかい)などは日常に使うが、みぐさい(汚い、みっともない)や、おそい(ボロい)、ささらほうさら(散々、滅茶苦茶)などは自分では使わないが、意味は分かるものもある。

また、他県に進学した際には色々な地方からの言葉が交わり、そこでもやはり言葉の違いに花が咲いた。中でも可愛らしかったのは、静岡出身の子が発した、「とかじってる」というものだ。髪がとかじってる、というので何が?と聞き返すと、髪が絡まるの意味だそう。

